

学校推薦型選抜
令和7年度 和歌山大学経済学部 学校推薦型選抜（スポーツ）
学校推薦型選抜（簿記）

小論文

出題意図・解答例

【問題1】

設問1

出題意図：比較的長文を読み、筆者の考えを理解したうえで、その内容を端的にまとめることができるか、をみる。

解答例：

シュンペーターは業界をリードする先発企業が技術革新の担い手となって、独占利潤による資本力と既存の技術に関する知識が強みであるのとらえるのに対して、弱みに関しては、既に市場支配力を確立していることから、これがなくなることによる利益の遺失が技術開発誘因を小さくするものと捉えている。それに対して、アローは新規参入の後発企業には、既存技術に関する知識や資本が少ないという弱みを持っているが、そのことは利益の遺失と無縁であることにより、先発企業を追い越そうとする意欲が強みとして発揮できるものととらえている。(250字)

設問2

出題意図：受験者の身の回りのもので、文中での自動車のケースに比較的近いものにどのようなものがあるかを思い起こさせ、その機能や存在価値についての考察力を問うている。

解答例：

写真機を例に挙げることができる。デジタルカメラが普及したことによって、それ以前のフィルムを用いたカメラの存在価値を失わせていき、また、その撮影機能やレンズを内蔵した携帯電話やスマートフォンが普及したことで、デジタルカメラの存在価値を失わせていったものと考えられる。そして、こうした携帯電話やスマートフォンの普及が家庭の固定電話や駅などでの公衆電話の存在価値を低くさせているとも考えられる。(194字)

学校推薦型選抜
令和7年度 和歌山大学経済学部 学校推薦型選抜（スポーツ）
学校推薦型選抜（簿記）

小論文

出題意図・解答例

【問題2】

設問1

出題意図：

アドミッションポリシーにある「社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）」を確認する。

設問1では、高校での教科「公共」で学習したアファーマティブ・アクションについて一定の知識を有することを前提に、出題文章に書かれている内容を理解できているのかと、その理解した内容を自身の言葉で表現できるのかを、特に見ようとしている。

アファーマティブ・アクションはマイノリティが、マジョリティと同等の権利を獲得するための積極的な方法である。下線部(1)では、人種的にはマイノリティのアジア系アメリカ人が、大学進学率においてはマイノリティではないことから、アファーマティブ・アクションの対象外となっており、白人同様に差別されていることを理解し、適切に表現できることを確認する。

解答例：

人種的にマイノリティであるアジア系アメリカ人は教育や所得において成功した。アファーマティブ・アクションはマイノリティを優遇することで、マジョリティを差別しているなどの理由で反対された。成功したアジア系アメリカ人は、その成功によりマジョリティになることでアファーマティブ・アクションによって差別されることになったために、アファーマティブ・アクションに反対したからである。(184字)

設問 2

出題意図：

アドミッションポリシーにある「社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）」を確認する。

問題文では、アメリカの人種におけるアファーマティブ・アクションが歴史的過程の中で問題視されるようになってきたことが書かれている。現在、日本の大学で進んでいる「女子枠」は問題文にある差別を是正するための措置に含まれるとすれば、アメリカのように日本でも問題視される可能性も否定できない。

設問 2 では、設問 1 と同様に高校での教科「公共」で学習したアファーマティブ・アクションについて一定の知識を有することを前提にしたうえで、多様性のアファーマティブ・アクションに関する最近の具体的な大学の動向について、受験生がどのように考えたのかを問う。

自由に記述するものであって、その考え方の是非を問うものではない。その考え方が論理的にかつ自身の言葉で表現できているのかを、見ようとしている。

解答例：

出題意図に提示したように、解答は多様になることを想定していることから例を示さない。